

麗気烈風

令和3年12月23日(木)

文責 村田和人

～ 教育は「共育」「協育」「強育」で ～

～【心の中のアリの穴】～

大阪で起きた放火殺人事件を始め今年はいやな事件が特に多かったように思います。おそらくこんなことを指摘する人はほとんどいないと思いますが、いろいろな事件の中で、私が一番気になっているのは、農作物の盗難が増えてきたということです。

日本人にとって田畑は一種の聖地であり、どんなに困っていても他人様の田畑に侵入して作物を盗むことは絶対にしてはいけないという不文律がありました。その不文律が令和の時代になり、みるみる崩れていっているような気がします。何かいやな空気が日本中に漂い始めたように感じています。

卑近な例ですが、狭い道を運転していて、対向車が来たので止まっても、対向車のドライバーは「ありがとう。」の合図も何もせず、さっとすれ違う場面が増えてきました。こうした時はたいてい、頭を軽く下げるか、手を挙げて感謝の意を伝えるのがマナーだと思います。また夜間運転中、ライトを下げずにハイビームのまま運転している人も増えてきたように思います。教育者として心配なのは、そんな親の姿を見せることは子ども達にとって決してプラスではないということです。

いやな空気、心配な空気と言えば、鹿南中にも漂っているようです。

先生方と話す中で、こんな指摘がありました。1年生のことで、入学したての1学期は提出物もしっかりできていたのに、2学期になったら提出物が揃わなくなってきた。同時にどうもテストの成績も下降し始めているようだ、ということです。

学校は成長するところであり、退化するところではありません。一事が万事です。提出物が悪いということは、その子どもの中に占める学校の比重が小さくなってきたということで、当然勉強もなくなるし、その結果、テストで点数がとれなくなってくるはずなんです。

一つは私達鹿南中職員の責任です。わずかな忘れ物を見逃してきた結果、いつの間にか提出物を出さなくてもどうにかなる、という雰囲気、空気が醸成されてきたのかもしれませんが。このことは私達の大きな反省材料です。

さっそく1年部では課題等未提出の生徒に対し

て、居残り勉強の指導が始まりました。とてもありがたいと私は思います。「アリの穴から堤は崩れる」といいます。すでにアリの穴がいくつも空いている状態かもしれません。あるいはモグラの穴まで広がっているかもしれません。対応するのなら今しかありません

このいやな空気は学校だけの対応では払拭できません。保護者のご協力なしには不可能です。居残りや帰りが遅れるかもしれませんが、「頑張れ！」と励ましてください。また明後日から冬休みです。課題も出されると思います。3学期の提出日には必ず全員が一発で提出完了するように、ご家庭でもご指導ください。一事が万事です。「たかが学校の宿題。それ一つまともにできなくて、お前、いったいどんな人になりたいと思っているの？」とわが子にはいつもそう言って、叱咤激励していました。

1年生のことを書いてきましたが、こうした空気が突然その学年に広がるわけではもちろんありません。2年生、3年生、そして卒業生から受け継がれてきた、鹿南中の悪しき伝統、文化なのです。

2年生、3年生の皆さん。学校は成長するところですよ。日々、「楽しく」過ごすのは素晴らしいことですが、「楽」するところではありません。とりあえず適当に毎日を過ごしておこうという「心の中のアリの穴」はありませんか。そのつけは必ずまわってきます。自分の進みたい、生きたい道に行けなかったという形で。

～【変革、そして大躍進を】～

現在、鹿南中の「落ち着き度」は掛け値なしに熊本市内トップレベルだと思います。昨日、大和地区青少協の皆さんとの交流事業に2年生の生徒が30名ほど参加してくれましたが、どの生徒も嫌な顔一つせず、地域の方との交流を心から楽しんでくれました。素直で優しい生徒達に、地域の皆さんは深く感心されていました。

子ども達はこんな素晴らしい学校で学んでいます。その気になったら自分の可能性を思う存分伸ばせる環境は既にできあがっています。

生徒の皆さん、保護者の皆さん、そして先生方、一致団結して、令和4年を鹿南中の変革、そして大躍進の年にしましょう。

保護者の皆様にとって今年はどうな一年でしたか？記入されて、その理由を子どもさんにお話してください。

【今年の文字】

【今年の文字】
私にとって今年は

暖

でした。理由は明日の終業式で子ども達に伝えます。